

10月例会 大分県九重連山 大船山(1786.9m) 平治岳(1642m 三等三角点) 久住山(1787m 1等三角点)

実施日 2018(平成30年)10月29日(月)~31日(水) (2泊3日)

参加者 CL藤川神 SL小林陽 小林宮 藤川豊

仲田 桑野洋 小倉 船越 近藤嗣 近藤浩 井上 今井 神山 西崎 佐藤綾 三村 水畑 岡野
喜多 墨江 佐々木 飯国 高井 梶原 以上24名

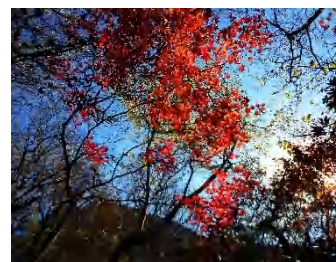
行程 29日 岡山駅西口発(6:00)⇒小谷SA ⇒佐渡川SA ⇒今川SA ⇒湯布院IC ⇒長者原登山口着(13:30)
準備体操後登山開始(13:45)→雨ヶ池(15:05-15)→坊がつる(16:00-10)→法華院温泉着(16:30)
30日 法華院温泉発(7:40)→段原(9:30-35)→大船山(10:05-15)→段原(10:50)→大戸越・昼食(12:05-40)→平治岳(13:20-25)→大戸越(14:10-15)→法華院温泉着(16:30)
31日 法華院温泉発(7:10)→久住分かれ(9:15)→久住山(9:35-45)→久住分かれ(10:15)→牧ノ戸峠着(12:25) 牧ノ戸峠発(12:40)⇒往路を引き返す⇒岡山西口着(20:00) 解散

概要 29日(快晴)九重連山登山はみつがしわ山の会では3度目の挑戦となる。バスの中で前回参加した人達から九重の様子やミヤマキリシマが綺麗だった話を聞く。CDの鑑賞(百名山・山の天気)や、坊がつる賛歌を歌い、ビンゴゲームも楽しむうちに長者原に着く。準備体操後 法華院温泉に向けて出発 一面に広がるススキのタテ原湿原の中の木道を抜け、森の中に入るとクヌギ・カエデ・



登山開始

ナナカマドなど木々の紅葉を間近に楽しむ事が出来た。間もなく雨ヶ池に着き休憩 途中リンドウ・ヤマツキヨウの花が咲いていた。



原生林の中を下ると坊がつるの湿原に出て、しばらく歩くと今夜からの宿泊場所である法華院温泉山荘に到着。温泉に入り、夕食後は西崎さんのオカリナの演奏に耳を傾け九重の夜を楽しむ。夜空が綺麗で天の川もクッキリ見え感激

30日(晴れ)朝食を済ませて出発、坊がつるのキャンプ場の中を通り大船山の登山口に着く。ミヤマキリシマツツジアセビなどが密生する急坂を上り、灌木の欠けた道から振り返ると眼前に三股山が望まれた。やがて草原状の段原に到達。ここで荷物をデポして身軽になり、道標に従い岩石や木々の間を登って山頂に着く。

山頂は狭い岩山であったが360度の展望を楽しめた。遠く双峰を形成した由布岳・祖母山などの連峰が一望できた。直下に火口湖の池があり、紅葉が水面に映る様はえも言われぬ趣があるのだが、この時はもう山頂あたりは紅葉が終わっており、今は法華院山荘(1303m)あたりまで紅葉が降りている。山頂から北の段原に戻りしばらく直進、カーブを描きながら登ると北大船山山頂に至る。この付近に全員揃って昼食を食べるスペースが無いので、尾根を下り灌木の中のジグザク道を下り、大戸越の草原の十字路に着き、ここで昼食を食べる。

ここで坊がつるに下る3名と分かれる。21名は平治岳目指しミヤマキリシマなどが茂る狭い急坂を登った。



大船山頂

山頂からは坊がつるを間にして、三股山・中岳・久住山・星生山等が展望出来た。

大戸越に戻り再びリュックを担ぎ、樹林帯の中の道や、深く掘れた沢道を苦労しながら歩いて坊がつるを経て、法華院温泉山荘に無事到着した。

尚、先発隊は途中の標識に惑わされ少し道迷いしたが無事に帰着。本隊を出迎えてくれ、弁当ガラの処理や夕食の予約など行ってくれた。

今宵も夕食後に坊がつる賛歌や秋の歌を合唱したり、ストーブを囲み山の話に花が咲いた。



31日(晴|曇) 山荘を出発し久住山に向け、落石に注意しながら谷の左側に沿って急坂を登ると北千里浜に着く。北千里浜は草木の無い砂と小石の平坦地で歩き易かった。しばらく歩き岩場を急登すると久住分かれに到着。



久住山頂

ここで2班に分かれ、16名は荷物を置いて九重連邦の主峰で一等三角点のある久住山に登る。頂上はあいにく霧が出て眺望は今少しで残念だったが、気温が下がったのが幸いして霧氷が綺麗だった。



別の8名は避難小屋にて、桑野さん提供の暖かいコーヒーと各人持参の菓子を食べながら親睦を深めた。

扇ヶ鼻分岐の狭い岩道を越え、星生山の紅葉を右手に見ながら、西千里浜を歩いて沓掛山山頂に着く。展望台から眺めた広大な九重高原の紅葉は抜群だった。



星生山西斜面の紅葉

牧ノ戸峠から登って来る、大勢の人達とすれ違いながら尾根道を下り牧ノ戸峠の険しい岩山を越えて休憩。コンクリート舗装の坂道を下り、バスの待つ牧ノ戸峠の登山口に無事到着。(藤川豊 記)



沓掛山